

想いがつまつた作品

私たちがあなたの作品を通じて
未来社会を語り合いたいと願っています。

作品にこめたその「想い」は観る人の心を動かします。
映像に託して伝えていく。
心と心を繋いでいくことを
映像の大賞

震災の復興をはじめ経済、社会環境の変化は
身近な生活の中にも影響しています。
私たちに何ができるのだろう。
一人ひとりがこの現実を受けとめて
心と心を繋いでいくことを
映像の大賞



映像大賞

- 20分以内のビデオ作品 (DVDまたはミニDV)
- プロ・アマの資格不問
- テーマ・題材は自由
- 作品ジャンルも制限なし (ドキュメンタリー、ドラマ、アニメ、アートほか)
- 審査委員・コメンテーター (予定) (敬称略 / 五十音順)



大林 宣彦
映画作家



小林 はくどう
ビデオ作家



佐藤 博昭
ビデオ作家
成安造形大学名譽教授
日本工学院専門学校講師



椎名 誠
作家



高畑 烫
アニメーション映画監督



羽仁 進
映画監督

- 賞
- ビデオ大賞 1本 賞状・トロフィー
- 優秀作品賞 10本 賞状・楯
- 佳作 20本 賞状・楯
- 築紫哲也賞 1本 賞状・楯
- 市民賞 1本 賞状・楯

■ 発表・表彰式、交流会

● 2013年1月下旬 (予定)

● 主催: NPO法人市民がつくるTVF 〒143-0015 東京都大田区大森西2-16-2 こらぼ大森2F TEL:03-6404-6613 FAX:03-6404-6614 E-mail:info@tvf2010.org

● 特別協賛:日本工学院専門学校

● 協賛:テレビ愛媛ビデオリポータークラブ、星の降る里芦別映画学校、NPO法人湘南市民メディアネットワーク、東京視点

● 協力:(株)玄光社/ビデオサロン、(株)伸樹社/ビデオジャーナル、いづみ窓、(株)スプラシア、NPO法人市民がつくるTVFスタッフ&サポーターのみなさん



応募〆切 2012年
9月30日(日)
当日消印有効/宅配便可

テーマ・題材は身近な暮らしの中にある。

地域の暮らし/コミュニティ

待合室の、片隅で。

牧野 竜二

NPO法人映像コミュニティ・ムーブユーノ 北海道 27歳(20分00秒)



稚内駅は日本最北端にあり、独特の哀愁に満ちている。待合室の一角にある立ち食いそば屋で3年半もの間定点観察。評判の味を求めてやってくる旅人たちとそば屋で働く主婦たち、束の間の会話から人生が見え隠れする。再開発で駅舎は取り壊されてしまう。

手づくり歌舞伎の「わ」

蒲 宏樹 東京都64歳(19分38秒)



コミュニティの魅力を探って、あきる野市に伝わる農村歌舞伎「菅生一座」に密着。町内会運営で資金は住民ぐるみでの資源ごみの回収。住民総出による組み立て舞台づくりが圧巻で、荒縄縛りで丸太を縛り、今回は竹屋根が復活した。かつらも舞台衣装も手作りだ。

子ども達が教えてくれたこと

白木 美和 山口県41歳(17分36秒)



過保護や安全管理ではない、健やかに育てたい教育の原点が見えるリポート。小人のおうちえんでは子どもたちのしたいことを徹底的にやらせようの方針だ。子どもたちは自分で選択したことにも意欲的で、自然の中で自主的に考えながら行動する成長振りに驚嘆する。

子どもたちの日常

私の格闘家な妹

箕輪 仁美 栃木県26歳(20分00秒)



姉妹は互いに無関心な関係。妹は格闘家で、姉にとっては近寄りがたい怖い存在。姉は奇妙な関係に修復を図ろうと、ビデオをクッションにしようとする。妹の許可を得て、撮影が続き、次第に姉は2人の距離感が縮まったと感じたが、妹は言葉では無関心を装う。

じいちゃんとうなぎ

長妻 洋 茨城県73歳(7分00秒)



家族ビデオ日記。孫娘たちが夏ばて気味で、健康回復を願い、心のこもった鰻を食べさせたいと願う作者は近くの堀川で、挑戦するが、釣れない日々が続く。ギリギリで収穫があり、蒲焼が間に合った。釣りをする作者と通行人とのやりとりや独特の語りが光る。

町の伝統/技術の伝承

消えてしまった養蚕技術

藤井 喜郎 神奈川県73歳(17分00秒)



神奈川県は「絹の道」があるほど、絹が栄えたが、2011年、県は助成金を打ち切り、県内から全養蚕農家が壊滅した。作者は知り合いで農家の夫を訪ね、荒れ果てた桑畑の惨状に愕然とし、「養蚕」が途絶えたことを嘆く。伝統の「養蚕作業」がしっかりと収録されている。

町の鍛冶屋さん ～野鍛冶の伝統を守る～

富山県立泊高等学校 観光ビジネスコース 富山県(11分35秒)



道具生産が機械化される中、1軒になってしまった鍛冶屋さん。高校生たちも「鉄は熱い内に打て」と鍛冶の仕組みを体験する。高齢の大久保さんは全国でもとんびの形をした泊鉈(とまりなた)がつくれる唯一の職人だ。野鍛冶の注文さえあれば、続けたいと願う。

注連縄のおじいちゃん

後藤 アツ子 千葉県68歳(6分45秒)

相模原市川尻八幡宮では年末に9本の注連縄を作っている。氏子たちを指導している81歳の古老に密着する。熟年の跡継ぎたちにいいたい放題の頑固親爺だが、縄やくるり棒の扱いなど実にうまい。口の悪さは故郷を愛し、伝統を守りたい一心だと作者も気付いていく。



母と娘 絵手紙との出会い

石塚 祐輔 栃木県79歳(5分15秒)



89歳で亡くなるまで母親と娘の絵手紙交換を続けたエピソード。遠く離れた母子は会うことも儘ならず、思いついたのが絵手紙。母からも庭の草花を綴った返事が届き始める。素朴な絵や文字に表現の豊かさを感じ、心のこもったコミュニケーションが広がる。

70歳憂鬱

小野塚 了 長野県73歳(3分55秒)



70歳を過ぎた自分を可笑しく卑下したドラマ。ボケと突っ込みの漫才と呼んだら良いだろうか。自信喪失の心を慰めるのは新登場のいつも前向きで、めげない心だ。やっと不老不死の薬が発売になったが、生前に間に合わず、仏壇を前に妻が飲んでいるショットで落ち。

うなぎ

青柳 完治 群馬県80歳(6分13秒)



川柳的ユーモアに溢れている。世相を反映させながら、節電生活の夏の、年寄り夫婦の日々の年金生活を綴った日記で生活の発想が興味深い。経済的に太陽光エネルギーでお湯を沸かせたラーメン作りも簡単だ。チラシで見つけた特売のうなぎを毎日食べ続ける。

炎天下の絆

黒河 貴 愛媛県72歳(9分28秒)



こちどりの巣を見た作者は孵化の模様の撮影を続ける。ところが異常に暑い6月で、誕生したばかりの雛は日陰を求めて、カメラのレンズフードの陰を見つけて入ってくる。そして親も。夫婦喧嘩で雛が仲裁に入るなど、小鳥自らが演技をしているようで、絶句。

硫黄島から戻ったイチョウ

山下 香 中央大学FLP 松野良一ゼミ 東京都22歳(10分00秒)



太平洋戦争の硫黄島で兵隊が玉碎、遺骨収集は現在も続いている。塹壕の中から1枚のイチョウが見つかった。妻から夫に宛てたもので、軍の厳しい検閲を超えて、家族の想いを伝えたイチョウの葉。イチョウの手紙は家族へ戻った。軍事郵便を通して戦争の悲劇を語る。

戦争の記憶/平和を考える

——前回の東京ビデオフェスティバル2012作品から——

— 東京ビデオフェスティバル2013作品づくりのヒント —

キャベツとわたし

河野 壽美子 愛媛県 78歳 (6分03秒)



ドラマのような主婦ビデオ日記。料理に使ったキャベツの残りの芯をコップに漬けといたら葉が出てきた。ある時、彼女は転倒し、右手首を骨折してしまう。不自由なりハビリ治療に耐える彼女と使命を終えた筈のキャベツの反復する構成が面白い。生命力と老いの交差を示唆。

日常の中の発見

簡単に卒乳させる100の方法

佐藤 健人 東京都 27歳 (10分00秒)



ビデオも家族となった可笑しい育児日記。出産してから、夫が主夫業に専念している。離乳期を迎えて、一向に卒乳しようとしている娘に親はいろいろ試みるが失敗。乳首に紺創膏を貼ったり、妻から隔離して大島行きの船に乗ることなど大プロジェクトに発展する。

子どもたちを放射能から守れ 福島のたたかい

湯本 雅典 東京都 57歳 (20分00秒)



ビデオは社会のコミュニケーションツールになり得るのか。原発事故から2ヶ月たった福島の子どもたちは公園で遊べないでいる。親たちの願いとは裏腹に、放射能安全基準数値や除染の見解のそれが明らかになり、対話ではなく対立しがちな集会をリポートする。

社会のできごとを考える

大福とカラオケ 17年半の原点

石川 勝 栃木県 57歳 (16分47秒)



足利事件での未熟な科学捜査による冤罪が明らかになり、服役中の菅谷さんが釈放され、無罪になった日常を密着したビデオ日記。嗜好は大福とカラオケで、自由になった嬉しさを味わう半面、元に戻らない悔しさが溢れる。氏を支援する女性と作者の絆が興味深い。

学校発ジャーナリズム

DAN☆KETSU

北星学園 余市高校放送局
北海道 (8分13秒)



ユニークな教育で知られる高校に入学生徒は高校中退など年齢、出身地が様々。研修での体験が「団結の木」で、6人が座布団の上に乗り、抱き合って20分間耐えるという伝統の団結ゲームだ。拒否していた女子も、先輩の説得で参加することになった。弱い自分からの脱皮できるか。

チョコレートのヒミツ

江戸川区立 鹿骨中学校放送部
東京都 (7分29秒)



味ではなく児童労働を問題にした中学版ジャーナリズム。チョコレートの原料はカカオ豆だが、労働を担うのは実は幼い子どもで、西アフリカでは今でも強制労働や人身売買がある。救出されたガーナ少年、フェア・トレードチョコ、反対デモと取材が精力的に展開する。

時代の変化の記録/観察

TIME SLIP 2

仙波 晃 東京都 72歳 (19分22秒)



1936年多摩川河川敷に最初の自動車サーキットが誕生。父親が撮影した自動車レースのフィルムを基に現在の風景と重ねたTIME SLIPを試みる。当時の観客席は今でも遺跡のように残っており、自動車レースが丁寧に復元される。戦後の食料難、烟と化した時代も蘇る。

童話「銀河鉄道の夜」を考える

姫路市立菅野中学校生物・理科研究班
兵庫県 (7分17秒)

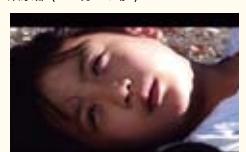


星座巡りをする幻想物語を理系の中学生たちが科学的に実証しようとした視点が光る。天の川の表現が牛乳の脂肪の玉であることを顕微鏡で確認し、鉛石、気体の元素の燃焼実験で星の色の違いを解き明かす。70年前の天文学、地質学など宮沢賢治の博識に脱帽する。

科学を学ぶ

ヤミトリドリノセカイ

日本工学院専門学校 放送・映画科 (監督 大崎良輔)
東京都 (11分16秒)



現代の混沌を批評しようとしたオムニバスドラマ。幼子の「どうして空は青いの？」の問い合わせに、老人は「真っ黒く見える」と対比的に答える。闇と光、天国と地獄、戦争と平和、愛と死、有と無、映画と闇などが交わる対比の言葉とイメージが続く。ゴダールの手法。

恋情藏書印

村上 直子 滋賀県 23歳 (6分50秒)



アートドラマ。図書館司書に一方的に恋した女子の心情を吐露した語りがうまい。仲良くなるために図書館通いを続けるが、肝心の読書には、ページをめくるが読めない。夢想の葛藤が刻んだり、判子、時計、花びら、蛾、などアニメーション表現が広がる。

新しい映像表現

はらぺこ ～Hungry Forest～

神奈川県立 弥栄高等学校
ARTLiVE 11 神奈川県 (19分59秒)



ミュージカルと映像を軸に、ファンション、サウンド、CG、などハイパームディアな表現の高校生 ARTLiVE。転校生のクラス内での孤立と学校に迷い込んだ腹ペコの母熊の死をモチーフに、お互いの苦しみや恵みの対話がコンセプト。東日本の被災者の絆を連想した。

蘇る写真、そして記憶 ～津波に飲まれた思い出の復興～



東京大学大学院 情報学環・
学際情報学府ドキュメンタリ
映像制作1班 東京都 (7分40秒)

お金で買えないのが記憶で、写真もそのひとつ。山元町は津波災害で、多くの住宅が流出した。支援活動のひとつに「思い出サルバージアルバム」プロジェクトがある。廃墟で集めた写真アルバムを丁寧に泥から洗浄し、持ち主に返そうとする活動の裏方を追う。

変わりゆくアラスカ

筒井 俊明 埼玉県 71歳 (18分20秒)



Ft M
～僕はまだ自分を呼ぶ言葉を知らない～

加藤 秀樹 埼玉県 52歳 (20分00秒)



雄大な自然が横たわるアラスカ。最近偉大なマッキンリーの裾野にも異変が起きていることを知る。ゾンラの永久凍土が溶け出し、針葉樹が倒れ、沼地が増えている。真冬でも雨が降るなど積雪が少なく、犬ぞりレースも危ぶまれている。地球温暖化の警鐘を鳴らす。

本人を証明

池田 稔 栃木県 65歳 (10分00秒)



4面マルチ。最近、サギ事件のせいか、貯金や保険の解約などで、本人証明が厳しく求められるようになった。死亡の場合は簡単に処理されるのに、配偶者が病などで意誰不明になり、委任状が書けない場合、どうすればいいのか。制度のいい加減さを問題提起する。

雪山のライチョウ

薩摩 浩子 神奈川県 24歳 (5分19秒)



ほのぼのとした手描きタッチと吹雪の実写合成のアニメーション。猛吹雪の雪山で、男は遭難しかける。意識が次第に遠のく中、家庭での彼を待つ家族や、暖かい浴槽が幻覚として浮かぶ。一羽のライチョウが現れ、男の体温を暖めてくれたお陰で、男は無事ヘリコプターで救出される。

日常から生まれた多彩なTVF入賞作品。